

9. ナシ‘ 愛宕’ の果頂部切除による果形の改善（技術）			
[要約] 満開後30日ごろまでに、果頂部の突出した幼果の突出部を高さ 2 mm程度摘果バサミで切除すると、果形が改善され、果実品質にも悪影響を与えることはない。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868- 57- 2758

[背景・ねらい]

‘ 愛宕’ と‘ 新高’ は、果頂部が突出し、果形が乱れやすいことが欠点であるが、‘ 新高’ では、幼果期に突出部を切除すると果形が改善される。しかし、‘ 愛宕’ では果頂部切除による果形改善は試みられていない。そこで、‘ 愛宕’ でも果頂部切除による果形改善を試み、適正な切除時期および切除時の天候が果実の品質、切除部の腐敗、心腐れに及ぼす影響を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 満開後 30 日ごろ（果実横径：約 2 cm）に、果頂部が突出した幼果の果頂部を高さ 2 mm を目安に摘果バサミで切除すると、収穫果実の果頂部が突出せず、果形が改善された（図 1、表 1）。
2. 満開後 40 日を過ぎて切除すると切除痕が目立った（図 2）。
3. 満開後 30 日の切除では、処理時の天候にかかわらず、果実の異常な軟化や糖度の低下は認められず、切除部の腐敗、心腐れの増加も認められなかった（表 2）。
4. 処理果は、室温で 40 日間貯蔵した後も、品質の低下、果肉障害、裂皮の増加や切除痕の変色は認められなかった（データ省略）。

以上の結果から‘ 愛宕’ の果頂部が突出した幼果は、満開後 30 日ごろに果頂部を切除すると収穫果実の果形が改善される。

[成果の活用面・留意点]

1. 果頂部突出果に限定し適用する。良果には実施する必要はない。
2. 深く切除しすぎると、果形が扁平になる。
3. 小袋を利用した栽培でも果実品質に影響はなく活用できる。

[具体的データ]

表 1 満開後 30 日の果頂部切除処理が‘ 愛宕 ’ の収穫果実の果形に及ぼす影響

果形	切除	処理直前		収穫期		供試数 (個)
		突出長 (mm)	果形 指数 ^{a)}	突出長 (mm)	果形 指数 ^{a)}	
突出	有	3.2a	1.16a	0 a	0.83a	29
突出	無	3.2a	1.14a	17.8c	0.92b	31
良好	無	1.2b	1.04b	3.6b	0.86a	37
有意差 ^{b)}		***	***	**	***	—

a) 果実縦径/横径

b) 表中の異英文字間には、Spj otvoll-Stoline 検定により 0.1 (***)、1 % (**) で有意差有り



図 1 収穫時における果頂部突出果(左)と
切除処理果(右)

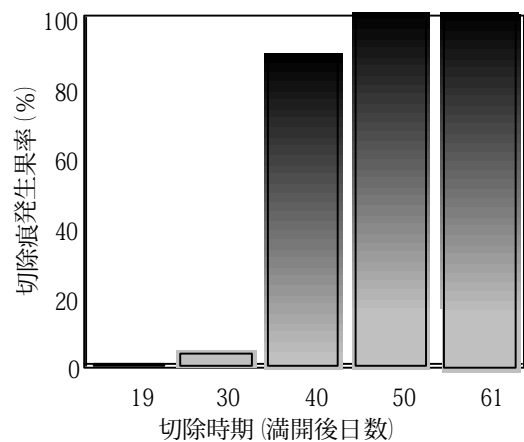


図 2 切除時期と切除痕発生果率

表 2 切除処理時の天候が果実品質に及ぼす影響^{a)}

切除時の天候	果実重 (g)	硬度 (lb)	糖度 (Brix)	pH	心腐れ ^{b)}	
					重症	軽症
晴	800	5.2	14.0a	4.6	0/50	5/50
雨	871	5.1	14.0a	4.6	0/43	0/43
無処理	850	5.5	13.2b	4.6	0/20	0/20

a) 硬度、糖度は 1 区当たり 10 果について調査、

b) 心腐れは発生数/調査数

重症果は外観で腐敗が確認できたもの、軽症果は果実の破壊調査で確認できたもの

[その他]

試験研究課題・事業名：新高ナシの超早期出荷技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成 10～14 年度

関連情報等：平成 13 年度試験研究主要成果「ナシ‘ 新高 ’ の果頂部切除による果形の改善 (技術)」